

3月の沖縄は、あつかった！ 第一回強制動員真相究明全国研究集会、などなど

『むくげ通信』287号、2018年3月24日より

飛田雄一

久しぶりの沖縄だ。強制動員真相究明ネットワーク（共同代表、庵澄由香、飛田）の集会だ。本番は、3月17日～19日、前日の打ち合わせのために16日沖縄でよかつたのだが、15日（木）、私は休みの日なので出発した。ちょうど古本市スタートの日、朝からプロの古本屋さんはじめ約20名のお客さんがきてくださっていた。

午後、神戸空港からANAで出発。神戸空港は建設に反対していたが、最近よく利用する。便利なのだ・・・。さっそく夜は、沖縄のM牧師とSCM生野・釜ヶ崎現場研修の元スタッフSさんと3人で飲んだ。お二人とも関西学院大学卒業、初対面だったが3人で話が弾んだ。

翌16日、自転車を借りてサイクリングの予定だった。が、朝から雨だ。風も強い。映画に行くことにした。あこがれの桜坂劇場だ。中島みゆき劇場版LIVEセレクションA「歌旅」を観た。2500円、映画にしては高いがコンサート（なかなかチケットを入手できない）にしては安い。よかつた。もう一本観た。「5%の奇跡一嘘から始まる素敵人生」、これもよかつた。前々から観たかったのだが神戸では時間がとれなかった。桜坂劇場はいい映画をしていて、「密偵（ソン・ガンホ）」、「劇場版、岩合光昭の世界ネコ歩き」、「米軍が最も恐れた男、その名はカメリロ（瀬長亀次郎）」も観たかったが断念した。夜は事前打ち合わせを少しし、前夜祭を、だいぶした。

3月17日（土）、午後1時から6時まで「第一回強制動員真相究明全国研究集会・沖縄」、会場は、沖縄大学同窓会館。主催は、強制動員真相究明ネットワークと沖縄恨（ハン）之碑の会、協賛が、沖縄・韓国民衆連帯、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」、沖縄平和ネットワーク、基地・軍隊を許さない行動する女たちの会、平和ガイドの会だ。

内容は充実していた。講演／報告は以下のとおり。よく5時間でできたものだし、よく5時間もしたものだ。（休憩はちゃんとありました。ロビー展示も充実）むくげの会関係者としては堀内夫妻、近藤とみお夫妻、足立龍枝さん、北原道子さんも参加した。
<基調講演①>「天皇制を守る戦闘だった沖縄戦」沖縄国際大学名誉教授 石原昌家/<基調講演②>

「軍人・軍属の動員の実態とその被害」在日朝鮮人運動史研究会 塚崎昌之

<沖縄からの報告>「沖縄戦で軍人軍属に動員された朝鮮の若者」沖縄恨（ハン）之碑の会 沖本富貴子／「なぜ沖縄にこれほどの「慰安所」ができたのか？」基地・軍隊を許さない行動する女たちの会 高里鈴代／「沖縄戦における戦争犠牲者の遺骨収集について」ガマフヤー 具志堅隆松

<地域からの報告>「朝鮮料理店・産業「慰安所」と朝鮮の女性たち～埋もれた記憶に光を」を開催して 高麗博物館朝鮮女性史研究会 渡辺素子／「明治日本の産業革命遺産と強制労働」三池・高島など九州の炭坑への朝鮮人動員数—石炭統制会福岡支部管内炭礦現況調査票から」強制動員真相究明ネットワーク 竹内康人（他に<紙上報告>「法的解決済み」論の構造と日本の過去清算」強制動員真相究明ネットワーク 小林久公）（当日配布の資料集 A4、68頁を販売しています。希望者は送料込700円を郵便振替<00930-9-297182 真相究明ネット>でご送金ください。入金確認後にお送りします）



講演／報告はいずれも内容の濃いもので、それぞれにタイムキーパーと格闘しながらの報告だった。

夜は懇親会。80名の参加があり、海勢頭豊さん、知花昌一さんの歌、金城実さんのゲダ踊りもありおおいに盛り上がった。（記事は、琉球新報2018.3.18）

翌18日（日）は、フィールドワークだ。バス一台をチャータした。補助席まで満席の58名、あと数名が自家用車で追いかけた。南部マラソン大会と重なっていたが、訪問順序変更などによって交通渋滞をクリアし、その日の飛行機便の人は那覇空港

で、その他の人は沖縄県庁前で解散となった。

山城地区では、具志堅隆松さんの案内でフィールドワークした。ここは朝鮮人軍属部隊である「水勤102中隊」が斬り込み攻撃に動員され全滅したところだ



中央の青いヤッケが具志堅さん

次に訪ねた米須地区は写真家の大城弘明さんが案内してくださった。自然壕のアガリンガマとウムニガマがある。そこに住民の避難壕だったが米軍に追われた日本軍が入ってきた。米軍の投稿呼びかけに日本軍は応じず住民の投稿も許さなかったので、ガソリンやガス弾が投げ込まれ全員が死亡した。アガリンガマでは50家族159名、ウムリーバマでは28家族71名が犠牲になった。逆に別のガマでは日本軍が来なかつたので住民が助かったガマ（同じ糸満市潮平権現壕）もあったという。大城さんは地域の住民を調査し、詳細な犠牲者地図を作っている。その地図に感銘をうけた。



米須地区的忠靈の塔、犠牲者の名前が刻まれている



同地区的祠、一家全滅となり祠だけが残っている

大度海岸には日本軍や住民が隠れたガマがそのまま残っている。とてもきれいな海岸で、リーフ、イノ（サンゴ礁に囲まれた浅いおだやかな海）、礁池

（潮が引いたときにできる池）がある。礁池でたくさんの熱帯魚をみてみんな興奮した。（この感動を動画でうつして飛田 Facebook「飛田雄一」で検索）にはりました。前日の金城さんのゲダ踊りもアップ。



大度海岸の自然壕

そのほか、韓国人慰靈の塔、平和の礎（いしじ）を訪問した。平和の礎では、朝鮮人、韓国人の刻銘について現地平和ガイドによる詳細な説明があった。新しい研究により判明した事実も教えてくださったが、ここではその内容は紙面の都合で紹介できない。必要な方には PDF ファイルで送ります。メール hida@ksyc.jp をください。



韓国人慰靈の塔／平和の礎

19日（月）は、公式フィールドワーク②「辺野古座込み連帯行動」だ。が、私は、オプションの読谷ツアーにでかけた。メンバーは3名、それに平和ガイド2名と特別ガイド知花昌一さんと金城実さんがつくという豪華ツアーだった。金城さんのアトリエでは、金城さん制作の「神戸電鉄・朝鮮人労働者の像」の本物と対面した。さらに翌20日、国際市場をうろうろして神戸空港にもどつたのでありました。充実の沖縄6日間でした。

